

特定区域 6	
区域	旭川市全域
特定環境負荷低減事業活動の概要	生産地と消費地の連携による有機農業の推進
活動の種類	有機農業による生産活動
区域の現状	<p>旭川市は、北海道のほぼ中央の上川盆地に位置し、大雪山系からの豊かな水と肥沃な土地、日中の寒暖差の大きな気候など恵まれた条件にあり、北海道内で作付面積、収穫量ともに1位（令和6年産）である水稻を中心に、畑作、野菜、花き、果樹といった多様な作物が栽培されています。</p> <p>また、生産者の環境負荷低減の取組を推進するとともに消費者の様々なニーズに対応できるよう、有機農業、特別栽培、北海道のクリーン農業認証の表示制度であるYES!cleanの推進など、地域全体でクリーン農業に取り組んでいます。</p> <p>大阪府泉大津市と令和5年8月24日に農業連携協定を締結し、農業を通じた連携による相互の地域の持続的な発展に向けた取組を実施しており、令和6年7月11日には、生産及び消費の両面から環境に配慮した農業の推進を図るため、全国初の生産地と消費地の遠隔地連携によるオーガニックビレッジ宣言を行いました。</p>
活動の具体的内容及び目標	<p>旭川市と泉大津市の農業連携協定に基づき、泉大津市学校給食への旭川産有機米の提供を継続することにより、安定的な有機農産物の販路を確保します。</p> <p>また、有機農業への理解促進と機運醸成を図るため、旭川市と泉大津市の両市において有機農業に関するPR活動を行うほか、大都市圏などの他のエリアにおいてもPR活動を行い、販路拡大を目指します。</p> <p>加えて、農業機械や設備、機器等の導入を支援し、有機農業の取組者及び取組面積の増加を目指します。</p> <p>以上の取組を実施することで、有機農業の拡大を目指すとともに、生産者・消費者・環境それぞれにとって「三方よし」となるよう持続可能な取組を創出し、生産地と消費地が直接「顔の見える関係性」でつながり、双方にとっての地域課題の解決が図られるような共存共栄の関係性を構築し、ひいては全国の「農業連携」のモデルケースとなることを目指します。</p>